

(3) カーネーション
ア 殺菌剤

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	FRAC コード	適 用 病 害 虫 名										注 意 事 項		
				茎 腐 病	灰 色 か び 病	斑 点 病	さ び 病	苗 立 枯 病	株 腐 病	立 枯 病						
エムダイファー水和剤	マンネブ	有機硫黄	M03		◎		◎									
サンヨール	DBEDC	有機銅	M01		花											花：【花き類・観葉植物登録】
ジマンダイセン水和剤	マンゼブ	有機硫黄	M03		◎		◎									
ステンレス	アソハム	有機硫黄	M03			◎	◎									
ダコニール1000	TPN	その他	M05			◎										
タチガレン液剤	ヒドロキシノキサール	その他	32								◎					
バシタック水和剤75	メプロニル	アミド	7				◎									
ポリオキシシンAL水溶剤	ポリオキシシン複合体	抗生物質	19		花	◎										花：【花き類・観葉植物登録】
ポリベリン水和剤	ミノキサジン酢酸塩・ポリオキシシン	混合剤	M07・19		花											花：【花き類・観葉植物登録】
リゾレックス水和剤	トルクロホスメチル	有機リン	14	花				◎	花	花						花：【花き類・観葉植物登録】

注) 苗立枯病の対象病原菌の表記 R:Rhizoctonia

(3) カーネーション
イ 殺虫剤

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	I R A C コード	適 用 病 害 虫 名									注 意 事 項
				ハ ダ ニ 類	ナ ミ ハ ダ ニ	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ヨ ト ウ ム シ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ	タ バ コ ガ 類	オ オ タ バ コ ガ	ク ロ ウ リ ハ ム シ	
ア ク セ ル フ ロ ア ブ ル	メフルミジン	その他	22B									花	花:【花き類・観葉植物登録】
ア グ ロ ス リ ン 乳 剤	シベルメトリン	ヒレスロイト	3A			◎		類					類:【ヨトウムシ類に適用】
ア グ リ メ ッ ク	アハメチン	マクロライト	6	花			花						花:【花き類・観葉植物登録】
ア デ ィ オ ン フ ロ ア ブ ル	ベルメトリン	ヒレスロイト	3A			◎							
ウ ラ ラ 5 0 D F	フロニカト	その他	29			モ							モ:【モモアアカアブラムシに適用】
オ ン コ ル 粒 剤 5	ペンツラカルブ	カーバメート	1A				花						花:【花き類・観葉植物登録】
カ ス ケ ー ド 乳 剤	フルフェノクスロン	IGR	15							◎			
カ ネ マ イ ト フ ロ ア ブ ル	アセキノシル	殺ダニ	20B	◎									
サ ン マ イ ト フ ロ ア ブ ル	ヒリダベン	殺ダニ	21A	◎									
ス ミ チ オ ン 乳 剤	MEP	有機リン	1B				◎					◎	
ダ ブ ル シ ュ ー タ ー S E	脂肪酸グリセリド・スピノサト	混合剤	5	花			花						花:【花き類・観葉植物登録】
ダ ニ カ ッ ト 乳 剤 2 0	アミトラス	殺ダニ	19	◎									
ダ ニ ト ロ ン フ ロ ア ブ ル	フェビロキシメート	殺ダニ	21A	花									花:【花き類・観葉植物登録】開花期に薬害がでる恐れがある
ダ ン ト ツ 水 溶 剤	クロチアニジン	ネニコチノイド	4A			花	花						花:【花き類・観葉植物登録】
テ ル ス タ ー フ ロ ア ブ ル	ピフェントリン	ヒレスロイト	3A	◎									
ト レ ボ ン 乳 剤	エトフェンプロックス	ヒレスロイト	3A				◎						
ハ チ ハ チ フ ロ ア ブ ル	トルフェンピラト	その他	21A				花						花:【花き類・観葉植物登録】
ピ ラ ニ カ E W	テブフェンピラト	殺ダニ	21A	◎									
ペ ン タ ッ ク 水 和 剤	ジエノクロル	殺ダニ	2A	施									施:【施設栽培登録】
ポ リ オ キ シ ン A L 水 溶 剤	ポリリキシン複合体	抗生物質	19	花			花						花:【花き類・観葉植物登録】
マ プ リ ッ ク 水 和 剤 2 0	フルハリネート	ヒレスロイト	3A	◎				◎					
モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤	アセタミプリト	ネニコチノイド	4A			花	花						花:【花き類・観葉植物登録】
モ レ ス タ ン 水 和 剤	キネキサリン系	その他	UN	◎									
ヨ ー バ ル フ ロ ア ブ ル	テトラリブロール	ジアミト	28									花	花:【花き類・観葉植物登録】
ヨ ト ウ コ ン - S	ビートアミル	フェロモン							◎				【シロイチモジヨトウの加害作物栽培地帯で適用】
ロ デ ィ ー 乳 剤	フェンプロパトリン	ヒレスロイト	3A	花		花							花:【花き類・観葉植物登録】
ロ ム ダ ン フ ロ ア ブ ル	テブフェノジト	IGR	18							花			花:【花き類・観葉植物登録】
〈 く ん 煙 剤 〉													

(3) カーネーション
ウ 土壌消毒剤

農 薬 名	成 分 名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適 用 病 害 虫 名											注 意 事 項		
			ケ	ネ	ハ	ナ	セ	ネ	ネ	萎	萎	疫	白		立	
			ラ	キ	リ	ガ	ン	グ	コ	凋	凋	病	絹		枯	
ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤	ガゾメット	I:8F							花	◎	花		花	花		花:【花き類・観葉植物登録】
キルパ	カーハムナトリウム塩	I:8F						花	花					花	花	花:【花き類・観葉植物登録】
クロールピクリン	クホルピクリン	I:8B	花	花	花		花			◎			◎	花		花:【花き類・観葉植物登録】
クロピク80 ドジョウピクリン ドロクロール	クホルピクリン	I:8B		花	花		花						◎	花		花:【花き類・観葉植物登録】
クロルピクリン錠剤	クホルピクリン	I:8B					◎			◎			◎			
クロピクテーブ	クホルピクリン	I:8B								◎						
ソイリー	クホルピクリン・D-D	I:8B・8A						◎	◎	◎						
ディ・トラペックス油剤	メチルイソシアネート・D-D	I:8F・8A					◎			◎	◎					
トラペックスサイド油剤	メチルイソシアネート	I:8F					◎			◎	◎					

注) 萎凋病, 立枯病の対象病原菌の表記 F:Fusarium, R:Rhizoctonia

エ 病虫害防除法（カーネーション）

（ア）萎凋細菌病 *Burkholderia caryophylli*

（防除のねらい）

病原細菌は被害残渣とともに残存し、土壌伝染する。発病後の防除は困難なので耕種的防除法を徹底し、病原細菌の侵入を防ぐことが大切である。

発病株は茎を水にさすと白濁した菌液が切口から流れ出す現象がみられる。

（耕種的防除法）

- （1）健全土壌に栽培する。
- （2）無病苗を用いる。
- （3）発病株は除去処分する。
- （4）採穂する場合は水揚げしない。

（イ）萎凋病・立枯病 *Fusarium oxysporum*, *Fusarium avenaceum*, *Fusarium tricinctum*, *Gibberella zeae*

（防除のねらい）

地際や根に傷がつくと発病しやすい。発病ほ場から健全ほ場への出入に注意する。

発病してからの防除は効果が劣るので、土壌消毒を行う。

（耕種的防除法）

- （1）無病苗を用いる。
- （2）茎根に傷をつけない。
- （3）健全土壌に植え付ける。
- （4）発病株は早期に除去する。

（ウ）さび病 *Uromyces dianthi*

（防除のねらい）

ハウスでは周年発生する。ニシキソウが中間寄生となり越年してさび胞子を形成し、感染する。発病しはじめると防除が困難になるので予防散布を行う。

（耕種的防除法）

- （1）被害茎葉を早期にできるだけ除去、焼却する。
- （2）施設栽培では換気を図る。
- （3）耐病性品種を栽培する。

（エ）灰色かび病 *Botrytis cinerea*

（防除のねらい）

病原菌は被害植物体上の菌糸、菌核や土壌中の菌核で越年する。ハウス栽培の多湿条件で発病しやすいので、湿度を下げることに重点を置く。また、被害花の摘除後に薬剤散布を行う。

（耕種的防除法）

- （1）被害花を除去する。
- （2）換気を行う。

（オ）斑点細菌病 *Burkholderia andropogonis*

（防除のねらい）

病原細菌は被害残渣とともに残存し、伝染源となる。降雨によって伝染する。

耕種的防除を徹底する。

（耕種的防除法）

- （1）罹病葉を除去する。
- （2）過湿にならないようにする。
- （3）かん水は茎葉に直接かからないようにする。

(カ) 斑点病 *Alternaria dianthi*

(防除のねらい)

病原菌は被害茎葉とともに菌糸や分生胞子の形で土壌中に残存して伝染源となる。ハウスでは周年発生し、露地では降雨が多い時期に多発する。早期発見に努め初期からの防除に重点を置く。

(耕種的防除法)

- (1) 発病株から採穂しない。
- (2) 被害茎葉は早めに除去する。
- (3) 加湿にならないようにし、施設では十分換気する。

(キ) 茎腐病 *Rhizoctonia solani*

(防除のねらい)

発病菌は土壌生息菌の一種で腐生生活を営んでいる。高温期の仮植床や定植まもないころに発生が多く、腐植の多いほ場ではさらに多発しやすい。

(耕種的防除法)

- (1) 排水を良くする。
- (2) 有機物は完熟したものをを用いる。
- (3) 発病株は除去する。

(ク) アザミウマ類

(防除のねらい)

成幼虫が寄生すると花卉を傷つけたり、葉の表層を吸汁する。発生初期の防除に重点を置く。

(ケ) アブラムシ類

(防除のねらい)

ワタアブラムシとモモアカアブラムシが寄生し育苗期に発生すると生育が悪くなる。ウイルスも媒介するので生育初期の発生に注意する。

(コ) タバコガ類

(防除のねらい)

成虫は葉裏に1個ずつ産卵するので、幼虫の被害も点在する。若齢幼虫は芯部を加害し、老齢幼虫は蕾に食入するので商品性を低下させる。

(耕種的防除法)

- (1) タバコ畑近くのはほ場では被害が多いので注意する。
- (2) 施設では換気部、出入口に防虫網を設置し、成虫の侵入を防ぐ。

(サ) シロイチモジヨトウ

(防除のねらい)

幼虫は葉・花を食害するが、特に芯への加害が多い。被害は8～10月にかけて多い。幼虫が大きくなると薬剤の効果が劣るので、ふ化直後から定期的に防除する。

(シ) クロウリハムシ

(防除のねらい)

成虫が葉を食害し、特に新芽を好む。

(ス) ハダニ類

(防除のねらい)

ナミハダニが主体で年間の発生回数も多く、ハウスでは冬でも発生する。茎葉が繁茂すると薬剤がかかりにくく、発生が多くなると防除が困難になるので、早期発見に努め、新芽や葉裏までむらなくかける。同一薬剤は連用しない。